

「土砂災害について学び思ったこと」

富山県 小矢部市立石動小学校 6年 木場谷 咲良

私は、学校の砂防教室と立山カルデラ砂防博物館での見学で、土砂災害である土石流や地すべり、がけくずれについてと、土砂災害のひ害を防ぐ方法について学びました。

学校の砂防教室では、土石流、地すべり、がけくずれの実際の映像を見た後、学校の裏山にある土砂災害が起こる危険性を観そくする3つの方法を見に行きました。1つ目の方法は、山からビオトープへ流れてくる水がバケツにたまる時間を計ることです。これは、水がたまる時間が決まった時間よりもおそいと、山にある水がぬかれていないことになり、土砂災害の起こる危険性があると分かります。2つ目の方法は、裏山にほった穴へロープを入れて、機械で水を検知し、山がふくんでいる水を調べることです。ほった穴の水が多いと、山がふくんでいる水が多いことになるので、土砂災害が起こりやすいこととなります。3つ目の方法は、集水井に地下水を集め、ビオトープへ流すことです。集水井に山がふくんでいる地下水を集めビオトープへ流すことで、山がふくむ水の量が減り、土砂災害が起こりにくくなります。

立山カルデラ砂防博物館では、砂防教室のときと同じように土石流、地すべり、がけくずれの実際の映像を見た後、けいじ物を見ながら砂防や砂防えん堤について学習しました。

砂防や砂防えん堤にも3つのはたらきがありました。1つ目のはたらきは、土石流や流木を受け止めて、下流の町や田畑がひ害を受けないようにすることです。2目のはたらきは、流れてきた土砂をため、川底をけずらせないようにすることです。3目のはたらきは、流れてくる土砂を一度ためて、下流へおだやかに流すことです。

この砂防教室と博物館での見学で、私たちの身の回りにはたくさんの土砂災害を防ぐ工夫がしてあることを知り、驚きました。また、砂防の大切さもよく分かりました。そして、その技術をつないでいくことが大切だと強く感じました。

私達の身の回りには、土砂災害のひ害を防ぐいろいろな工夫がしてあることを学んだことにより、さらに、危険がせまったときのために、私達も命を守るための備えが日ごろから大切だと思いました。

私たちにできることは、市役所や役場から放送される防災無線によく耳をかたむけること、ひなん訓練に積極的に参加すること、テレビやラジオの気象情報に気をつけて、いつでもひなんできるようにすることだと思いました。いつでもひなんできるようにするために、家の近くの危険な場所を調べること、家の近くのひなん場所までの道順の確にんをすること、防災グッズの確認をすること、きん急連らく先を決めておくことなどをするといいと思いました。

私は、砂防教室や博物館での見学で、身の回りに土砂災害のひ害を防ぐ工夫がしてあることや、私でも土砂災害に対しての備えをして、ひ害を少なくできることを学べたので、砂防教室や博物館での見学に参加したことは、とてもよかったと思いました。これからは、この学んだことを十分に生かして生活していきたいと思います。